

## オガサワラオオコウモリ

夕暮れになると、黒い影が空のあちこちに見える。巨大なコウモリが夜のエサ探しに飛んでいるのだ。オガサワラオオコウモリは小笠原諸島唯一の固有哺乳類であり、父島と母島、硫黄列島でのみ確認できる（生息している）。黒色と茶色の長い毛で覆われており、頭部、背中、腹部に白銀の毛が混じっている一方、羽には毛がない。成長したコウモリの翼開帳は 80 センチメートル以上にもなる。

人が島にやって来る以前、オガサワラオオコウモリはタコノキの実や自然の花、小さな果実などを食べていた。しかし現在では、地元の農家が栽培するマンゴーや柑橘類を好んでいるようだ。このコウモリは絶滅の危機に瀕しており、危害を加えることは法律で禁じられているため、一部の島民にとっては彼らとの共生が課題となっている。島の農家は農作物をネットで保護しようとしているが、コウモリが柔らかいネットに絡まり、振り解こうとして怪我をするおそれがある。そんなコウモリを守るため、政府、地元自治体、保護団体は、農作物を覆うと同時にコウモリの安全も確保できる硬質ネットを設置する農家の取り組みをサポートしている。また父島には、怪我をしたコウモリを治療してから自然界に戻すためのリハビリ施設もある。

オガサワラオオコウモリが現在危機にさらされている主な理由としては、生息地の喪失があげられる。彼らは日中、うっそうとした林をねぐらとしており、この林が彼らを守る場所であると同時に、休息および繁殖場所にもなっている。小笠原の森の多くは畑や家を作るために切り倒されてしまい、現在コウモリたちの生息場所は限られている。そんな彼らを保護して種を存続させるためには、父島では、ねぐらへの不要な立ち入りは禁止されている。

厳密には禁止されていないが、オガサワラオオコウモリのウォッチングツアーに参加する際は、熟知しているガイドを同伴することを強く勧めている。ガイドの指示なしでは、観光客は気づかないうちにオガサワラオオコウモリのねぐらを邪魔してしまい、それが原因でオガサワラオオコウモリはその場所を完全に放棄してしまう可能性がある。さらに、事前にオガサワラオオコウモリの居場所を知らなければ、見つけるのは難しいかもしれない。